

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書



令和 3 年 6 月 29 日現在

機関番号： 1 4 2 0 1

研究種目： 奨励研究

研究期間： 2020 ~ 2020

課題番号： 2 0 H 0 0 7 7 2

研究課題名 幼児期から小学校第 3 学年へ学びをつなぐタブレット型PC活用プログラムの開発

研究代表者

西嶋 良 (NISHIJIMA, Ryo)

滋賀大学・教育学部附属小学校・教諭

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 350,000 円

研究成果の概要：本研究は、幼児期から第 3 学年の学びをつなぐ視点で、ICT 機器を活用した学習プログラムを開発し、学びのつながりを評価することを目的とした。

学習プログラムを実施し、幼稚園教諭等の研究に関わった教員で協議し、紙媒体の記述や学習の姿から評価した結果、過去の写真をきっかけにしてこれまでの経験を想起し、学びを関連付ける姿が見られた。また、ICT機器の活用についても、学び方のつながりを捉えている記述が見られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

新学習指導要領では、資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められている。また、幼児期と児童期の円滑な接続（つながり）が改訂のポイントとなり、多くの実践が報告されている。しかし、この「接続」に関わる研究の多くは5歳児後半と小学校第1学年前半のごく短期的なつながりが対象となり、発達段階が大きく進む第3学年以降へのつながりを対象とした研究は十分ではない。幼児期から第3学年の学びをつなぐ視点で研究を進めることで、幼児期から児童期へと学びをつなぐ研究が発展する。

研究分野：教育学

キーワード：生活科教育 幼小接続 ICT活用

## 1. 研究の目的

本研究は、幼児期から第3学年の学びをつなぐ視点で、ICT 機器を活用した学習プログラムを開発し、幼児期から第3学年への学びのつながりを評価することを目的とした。

新学習指導要領では、資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の実現が求められている。また、幼児期と児童期の円滑な接続（つながり）が改訂のポイントとなり、多くの実践が報告されている。しかし、この「接続」に関わる研究の多くは5歳児後半と小学校第1学年前半のごく短期的なつながりが対象となり、発達段階が大きく進む第3学年以降へのつながりを対象とした研究は十分ではない。また、実践の評価は担任教員による質的な評価が中心であり、客観的・長期的な評価は十分ではない。実践の多くで見られる5歳児後半と小学校第1学年前半の短期的なつながりに限定せず、幼児期から第3学年の学びをつなぐ視点で学習プログラムを構築し、幼児期から第3学年までの学びのつながりを研究することで、幼児期から児童期へと学びをつなぐ研究が発展すると考えた。

## 2. 研究成果

タブレット型PCを活用して幼児期の学びから小学校第3学年以降の学びをつなぐ学習プログラムを開発・実践した。具体的には、第3学年4月～9月の種子植物を対象とした理科学習と、4月～10月の学校周辺の自然を対象とした総合的な学習の時間において、第1,2学年時にタブレット型PCで撮りためた植物の栽培や他者との関わりの写真、教師が撮影した幼児期の写真を活用する学習を実施した。この学習について、幼稚園教諭等の研究に関わった教員で協議し、学習の姿や質問紙調査の記述から評価した。対象となる子供は、第1学年でアサガオ、第2学年でナスを栽培しており、生活科の授業や休み時間にタブレット型PCで写真を撮影している。この写真を撮影者ごとに整理し、教師が撮影した写真と合わせてタブレット型PCで閲覧できるようにした。下級生や上級生、学校周辺に関わった人等、生活科を中心とした人との関わりが読み取れる写真についても、同様に閲覧できるよう整理した。また、幼児期には、ミニトマト等の植物を栽培したり、身近な仲間と関わって協力しながら遊んだりしており、それらの姿を幼稚園教諭が記録した写真についてもタブレット型PCで閲覧できるようにした。

学習の実施後に質問紙調査を実施し、質問紙調査の回答結果と、幼稚園教諭や担任教諭等が見取った子供の学びの姿について、幼児期から第2学年までの結果と関連付けることで、幼児期から第3学年までの学びのつながりを評価した。質問紙調査は、これまでの幼児期の研究（平成29年度教育課程研究指定校事業）、第1学年の研究（平成30年度奨励研究）、第2学年の研究（平成31年度奨励研究）として作成していた、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点とした項目を参考にして作成した。作成した質問紙調査は10月に実施した。また、幼稚園教諭等の研究に関わる教員が学びの姿を参観する機会を設け、子供の学びの姿を質的に評価した。

学習を実施したところ、種子植物を対象とした理科学習では、タブレット型PCの写真をきっかけにして過去の経験を想起し、「ナスの花とは全然違う形の花が咲いたよ」「葉っぱの数が思ったよりも少ないな」のようにこれまでの経験と比較する姿や、「たぶん、アサガオやナスと同じで、花が咲いて種ができると思う」のように経験と関連付けて予想する姿が見られた。比較することや関連付けることは、生活科学習や理科学習の重要な思考であるため、ICT 機器の活用が学びのつながりに有効に働いたと考えた。学校周辺の自然を対象とした学習では、「公園は掃除をしてくれていた人がいたけれど、この川はどうだろう」のように過去の経験から発想して探求の課題を設定する姿が見られた。自分の生活や経験から思考して課題を設定することは、総合的な学習の時間の重要な思考であるため、この学習でもICT 機器の活用が学びのつながりに有効に働いたと考えた。質問紙調査の記述では、過去の写真をきっかけに第2学年の野菜栽培の経験と種子植物の観察を結び付けて考えたり、学校周辺の自然物や公共施設と関わった経験と総合的な学習の活動を結び付けて考えたりするなど、学びを関連付ける姿が見られた。また、ICT 機器の活用について「撮った写真の使い方が2年生の時と似ていた」のような記述が見られる等、学び方のつながりを捉えている記述も見られた。

これらの結果から、本研究で開発した、幼児期から第3学年の学びをつなぐ視点でICT 機器を活用した学習プログラムは、学びのつながりを生み出すために有効だと考える。今後の課題として、第4学年以降への学びのつながりについても研究していく必要がある。

主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

研究組織（研究協力者）

| 氏名 | ローマ字氏名 |
|----|--------|
|----|--------|